

秋ノ六裏

たひふるさとかへり来へきて都にしり
たりし人くのもとを尋るにあるは

なくなきは数そふ世のはかなさすみなれ

しやどは蓬へよもぎかそまとなりはてゝす

ゑの露は日かげをたにもまたぬもとの

しつくなり

ふるさとの庭の小松へこまつにとしふりて

こずゑに秋のあらしをぞぎく

神無月へかみなづきのはじめの比へころ法金●剛へほうこんがうゐんの紅葉へもみ
ぢ